

平成30年度 第2回八幡地域協議会 会議要録

日 時：平成30年9月20日(木) 19時30分～21時32分

場 所：郡上市文化センター4階 第1大会議室

出席者：（八幡地域協議会委員）

尾田孝夫（会長）、加藤徳光（副会長）、本田教治（副会長）、鷺見典恭、
先山祥一、石山加代子、水野良一、山下優子、河合 研、和田 肇、鷺見耕平、
益田孝之、山田篤司、石田 克、細川竜弥、池戸郁夫、羽田野哲夫、日置次郎
（オブザーバー）

上田謙市、山田忠平、田代はつ江
（事務局）

臼田義孝総務部次長兼八幡振興統括、大野弘勝政策推進課長、武藤地方創生推進係長
（郡上市学校体制検討委員会）

木島孝夫委員長、辻 治美副委員長、小畑裕己委員、
石田 誠教育長、丸山 功教育次長、國居学校教育課長、松山総務係長

欠席者：（八幡地域協議会委員）

兼山勝治、武藤里恵
（オブザーバー）

渡辺友三、武藤忠樹

（開始 19時30分）

進行：大野課長

1. あいさつ

事務局

先般の台風による停電被害等では自治会等で避難所を開設いただくなどみなさんにご協力をいただき、感謝を申し上げます。本日の会議は報告事項、協議事項とあるが、協議についてはどれも時間を要すものかと思うが、審議のほどよろしく願います。

会 長

委員のみなさんにはいろいろとご尽力いただき、感謝申し上げます。各地域の活動などの交流等もしていきたいと思っている。協議事項の学校体制に関するものは特に、人口減少の度合いをいかにして少なくしていくかという我々のテーマに対して、学校教育は計画的にどんな組織で人材育成していくのかというものであるが、この実態が良いのか、あるいは、どうしたらより目標を達成し、地域が活性化していくのかということで忌憚

のないご意見をお聞かせいただきたい。また、災害でもそうであったが、人口が減っていく中、地域みんなで支え合うネットワークづくりという提案もあるので、地域のあり方についても忌憚のない意見をいただきたい。限られた時間の中で能率よく会議を進めたいので、よろしくお願いします。

進行：会長

2. 報告事項

1) 平成 29 年度八幡地域協議会（本体）の取組みについて

事務局：前回会議では事業費が掛かったもののみを報告させていただいた。今年度より新しく委員になられた方もいるので、事業費に上がっていない会議等について報告する。平成 29 年度は年に 4 回の全体会議を行っているが、全体会議の前には正副会長会議を行い会議の確認をしている。この他、別の補助金が充てられているが、地域協議会委員により婚活イベントを行なっている。

会長：婚活については、成果も上がりつつあるとの報告もあるので補足する。

2) ふれあい懇談会について

事務局：11 月 16 日（金）午後 7 時 30 分より防災センター研修室において開催する。郡上市統一のテーマを「市の防災対策について」と設定して行う。また、今年度から市統一テーマとは別に設けることとなるが、地域協議会委員のみなさん、また、自治会からの意見を参考に八幡地域独自のテーマとして、「持続可能な地域づくりについて」を設定させていただいた。ふれあい懇談会へは、各自治会長、地区長、各公民館長、地域協議会委員の皆さんに呼びかけをさせていただく。

会長：当日の時間も限られると思うので、委員の中でこの案件だけは絶対に外してほしくないといった意見もあると、当日の方向付にもなるかと思う。多くの方に参加いただきたいという事で、各代表の方と八幡振興統括との連名で案内を出すということであるので、よろしくお願いします。

3) 視察研修について

事務局：これまでも研修を行ってきたが、今年度も事業計画にもあるように視察研修を計画したいと思う。過去 3 年を振り返ると、三重県伊賀市、滋賀県東近江市、長野県飯田市と日帰りで行っているが、同様に「住民自治の仕組みについて、地域自治活動の事例について」をテーマに日帰りで行けるところを検討し、2 案を候補としたので、ここで決定いただきたいと思う。

1 つは長野県下條村で人口 3,800 人の村であるが、出生率が高く「奇跡の村」と呼ばれるところである。行政と住民がともに汗を流している代表事例として、1992 年からの取組みと歴史のあるものであるが、村道や農道、水路などの整備を住民自らが行き、村は資材を支給するといった『資材支給事業』が事例としてある。

もう1つは福井県鯖江市のNPO法人エル・コミュニティで、行政の後押しを得て、市民主役・市民協働のまちとしてもクローズアップされているが、住みたい街の未来像を描くところから始め、課題を見つけるのはその後ということで、中高生、全国の大学生と連携した『課題解決型から未来創造型』へ銘打った施策について聞くことができる。1人あたり3,000円の視察費が掛かるとのことであるが、予算的には賄える。この他にも良い事例があるという方がいれば意見をお聞かせいただきたいが、ここで決定いただきたいと思います。

会 長：事務局で検討いただいた。取り組む様子もそれぞれ違うようである。スケジュール的にも本日決定した方が良いと思うので、委員のみなさんから意見を伺いたい。特段新しい候補が無いようであれば、この2案から決定したい。

委 員①：日にちは決定していないとのことであるが、どちらの視察先もどんな日になっても受入れ体制はできているのか。

事 務 局：日程の確認等はしていない。先方の都合にも合わせながら、昨年と同時期の11月に行ないたいとの思いである。

委 員②：鯖江市の視察は、何かワーキングを行うのか。

事 務 局：内容確認はしていないが、講義を受けながらの研修が主になると思う。

副 会 長：前回、前々回と視察に行かせていただいた。視察先の取り組みとテーマは素晴らしいと思ったが、八幡地域の規模としては合わないのではないかという感想を持った記憶がある。人口も含めて規模が違うところはどうか。

会 長：八幡地域は各ブロックで地域づくりを行っているので、下條村の方が八幡の実情に近いのかなという印象もある。鯖江市も未来的な考えが良いとは思いますが、八幡とのギャップが大きいのかなという思いもある。

委 員③：下條村のように地域も協力して行うことは参考になると思う。

委 員④：この時期には八幡地域協議会以外にも市の自治会、八幡の自治会、社会福祉協議会とさまざまな視察研修が続く。皆さんの良いところで良いが、下條村の方が八幡の実情に近くて良いとは思う。

委 員⑤：これまでに視察研修に行けていない。皆さんの思いと同じように下條村にも興味はあるが、個人的には鯖江市を推したい気持ちでいる。地方創生について、地域の若者たちが取り組む姿を見たほうが、若者を八幡に残していきたいという意味では良いと思う。地域の管理を良くしよう、住みやすくしようという意味では下條村も良い。どちらにも良い点があると思う。

委 員①：事務局にお任せする、というのはどうか。

会 長：相手の都合もあるので直ぐには決まらず、変更することもあるかも知れないが、委員の皆さんの多くの意見はどうだったかということで、多数決を取りたい。

（多数決）・・・候補1の長野県下條村が多かったので、先方の都合と相談しながら決めていただきたい。

委 員③：日にちも決められないか。

事 務 局：現時点で確定することは難しいが、11月中旬から下旬くらいで調整させていただく。

3. 協議事項

1) 学校体制の検討について

会長：これについては、細かい数字の入った資料をここでお渡ししても議論が難しいとのことで、会議の案内と同封し資料を配付させていただいた。ここでも教育委員会から説明をいただき、良い学校体制の在り方について意見をいただきたい。

教事務局：郡上市の学校数は人口規模でみると岐阜県内においてダントツで多い。今後、人口減少が進む中でこのままの体制で良いのかを検討したいということで、5月に学校体制検討委員会を10人の委員で立ち上げた。10人の意見だけでは幅広い意見を聞けないので、各地域協議会から意見を伺いたく、本日の時間をいただいた。教育委員会としてはまだ案を持っていないので、検討委員会に諮問し、検討委員会から教育委員会に答申や提言されるという流れになる。資料に目を通していただいているかと思うが、まずは一方的に説明させていただき、その後、ご意見をいただきたい。

教事務局：（これからの時代に求められる教育と学校の役割について説明。）

1. 子どもたちが生きるこれからの社会と身に付けさせたい力

- ・急速な技術革新・情報化、グローバル化、急激な人口減少と高齢化
→子どもたちに身に付けさせたい力
- ・自分で考え、主体的に問題を解決していく力（確かな学力）
- ・多様な人間関係を築き、自分を生かしていく力（豊かな人間性）
- ・ふるさとに愛着を持ち、たくましく生きる力（高い志、郷土愛）

郡上市においては旧町村に1つずつの中学校となっているが、八幡町には規模は違うが2つの中学校がある。例えば技術科、家庭科などの授業は専門の先生が配置されないこともある。学校の位置についても資料の位置図を見ながら、検討いただきたいと思う。

教事務局：（児童生徒数一覧表、平成42年までの児童生徒数一覧表、学校位置図により、郡上市の実情を説明。）

先生の配置について、八幡西中学校においては、技術家庭科で専門の免許外の先生が授業を指導しており、音楽と美術については非常勤の先生が勤務している。八幡中学校は文化系を含む11の部活動から選択できるが、八幡西中学校では文化系のない4つから選択しないといけない状況である。

教事務局：忌憚のないご意見をいただきたい。これからの子どもの教育環境を保つために学校の規模や配置をどうしたら良いかという事がテーマである。大和地域では小学校は4つあるが、幼稚園は1つ、中学校も1つということで、小学校もクラス替えのできる規模にしたいとの意見が圧倒的に多かった。他の地域では小学校がなくなると寂しいとの意見や、中学校は部活動のできる人数が確保できるよう距離的に多少遠くても統合しても良い、旧町村区域を飛び越えても良いなどという意見があった。

- 会 長：思ったことを意見してもらうことが、検討委員会の参考になるかと思う。これから八幡地域を支えていく子どもたちの力付けにおいて、体制づくりの第一歩だと思うので、忌憚のない意見をお願いする。
- 副 会 長：クラス替えの話が出たが、クラス替えができないことで逆に良いことはないのかと考えていた部分もある。また、地域活動という分野では小学校区が1つの単位になって活動をしているところが多い。こういった視点も考慮し、検討していただきたい。
- 委 員⑤：自分が選出されている農業の分野からではないが、中学校について、技術科系の先生が常駐でいないということは、これからの情報化、グローバル化社会への変化への対応について健全ではないと思う。2つの中学校は統合して、教師の体制を整備した方が良いと感じた。
- 委 員②：実際に旧行政区域を越えて通っている小那比地区であるが、弊害はないか。
- 委 員⑥：小那比地区は美並地域の学校に通っているが、学校だけでなく消防も連携しており、農協やいろいろな部分で美並地域には付き合いがある。逆に公民館や老人クラブ等の集まりでは八幡まで行かないといけない。それが美並に行けば、八幡に行く半分の時間で済む。選挙や行政の書類交付などあらゆることが美並でできる。よそ者だからどうだ等、教育に対しての弊害はないと思う。実際に喜んでいると思う。以前は八幡西中学校に行っていた。おそらく住民の80%くらいが満足していると思う。
- 委 員②：川合地区も小学校の規模は小さいが、クラス替えは中学校でできるのであれば、小学校ではなくても良いと思う。クラス替えができないことに弊害があるのであれば駄目であるが、地域性を生かした教育をしてもらった方が良い。
- 委 員⑦：有徳地区は以前、気良の学校に通っていた。中学校は明宝へ行った方が近しい、良いのではないかと思う。
- 委 員③：地域の活性化という視点で、学校があれば移住者も期待できるが、学校がなくなれば期待できないと思う。1つの例として、石徹白も学校がなければ移住者も増えなかったかも知れない。
- 副 会 長：平成42年までの推移について、八幡西中学校のマイナス35%にはショックを受けているが、過去にPTA役員をやっていた時も同じような見通しを議論しており、地域の皆さんも行く行くは八幡中学校への統合の覚悟はしていたかと思う。また、義務教育は小中学校一貫ということで、卒後式なども一度で済むような体制にできないかと思っている。
- 委 員⑧：公民館は全て小学校区で活動している。小学校が統合すると地域性が壊れてしまう。小学校については、地域性を壊してまで見直す必要はないかと思う。
- 委 員⑨：那比地区の代表だが、自分の通った小学校、中学校は現在無くなっている。施設を維持するために、いくつもあると経費も掛かる。自分の通った学校は小中の併設校であり、校長、教頭もそれぞれいらした。免許の制限もあるかと思うが、併設校とし、先生も時間によって小学生、中学生を教えるというような体制があっても良いのかと思う。暴力的な意見だと思うが、1つの施設に小中学校を設けるといった見直しも必要ではないかと思う。

会 長：小野地区は児童が八幡小学校と口明方小学校とに分かれていなかったか。

委 員⑩：今は全て八幡小学校に通っている。小野に無いのは小学校だけで、幼稚園、中学校、高校のある地域である。自分は西和良小学校の卒業生であるが、当時は1学年に32人がおり、男子、女子ともに紅白戦ができていた。クラス替えはともかく、そういった活動ができる生徒数があると良いと思う。また、小規模校になると困ることとして、自分が中学生の時父親が教頭でいた。専門でもあったので、3年間体育を習うこととなった。先生もいろいろなことをやらないといけないということもあるので、専門性のある教師が配置されるような生徒数、授業時間数のあることが望ましいと思う。

委 員⑪：以前は小野7丁目、8丁目の児童が口明方小学校に来ており、それが八幡小学校へ通うことに変わる時に混乱した記憶がある。小野にも公民館があるが、7丁目、8丁目の子は口明方校区ということで公民館も苦勞された。そういったことは考慮すべきかと思う。また、自分の口明方中学時代は1学年30人で女子は10人だった。スポーツで対抗戦をやるには学年を飛び越えてやるしかなかった。個人的にはそれが悪い環境とは思っていなかったが、やはり1学年でいろいろなことができる環境は整えた方が良いかと思う。

委 員⑫：小学校は今のままで良いかと思うが、中学校ではバスケットボールの試合も八幡中と八幡西中が合同チームでやっており、いずれは合併もするのかなという印象は持った。

委 員⑬：公民館ではふるさと応援隊として、小中学生が協力してくれる。川合小学校は、以前八幡第2小学校として分かれていた五町の子と一緒にいる。ふるさと応援隊も五町の子が協力的であり、年月を掛ければ、子どもの方がやってくれると思う。自分の経験でも、生徒数の少ないところの良さも味わってきたが、これからの子どもたちに同じようなことが必要かどうかは別である。

委 員⑭：西和良小学校の統合については、複式学級もあったこと等から、中学校が統合される前から検討していた。児童数も一桁になった時、マンツーマン教育ができるので良いという意見もあるかと思うが、先生と子供が合わない時がきつい。また、ドッジボール等も高学年と低学年では一緒にできない。中学校に入って初めて綱引きをやるという現状であった。そういうことから、保護者から統合について話が出て実際に統合されることとなったというように、個々人の固定観念を持ち込まず、保護者の意見を大事に、また行政区域に囚われない考えで進めていかれると良いかと思う。子どもや保護者としては、旧町村を超えて近隣学校と統合することに抵抗はないかと思う。

会 長：ここで意見をまとめることはできないので、後は検討委員会で調整してもらいたい。

教事務局：最後に検討委員会委員から感想等を述べさせていただく。

検討委員①：自分も経験しているが、自分の学校がなくなることは寂しいことかと思う。

検討委員会の中で、子どもたちの将来のためを思って意見を述べていきたいと思う。

検討委員②：社会教育委員として公民館に関わっている。地域から小学校がなくなるこ

とは寂しいことかと思うが、そういう時こそ公民館が地域の核となって活躍できるところだと思う。郡上は公民館に力のあるところだと思っている。学校体制の検討については、子ども達にとってより良い方向でやりたいと思う。

検討委員③：各地域協議会を回らせていただいた感想として、議論するには非常に短い時間であるが、どこも熱い思いがあった。今の子どもが将来の地域を作っていくということで、皆さんのご意見をまとめていくことは難しい課題でもあるが、10人の委員で精一杯努めたいと思うのでよろしくお願いします。

副会長：どういうスケジュールで答申まで進められるのか。

教事務局：今年度中にはまとめたいと思う。教育委員会としては学校体制検討委員会からの答申を受け、再度練るというスケジュールとなる。

2) 小さな拠点とネットワークの形成について

事務局：小さな拠点とネットワークという考え方をもとに地域づくりの今後の方向性を考えていこうと取組みを始めたところである。もともとは国の政策でもあるが、中山間地域や過疎地域等において、集落をどうやって維持していくのか、人が減っても魅力的な地域として人が住むにはどうしていったら良いのかを考える所に出発点があり、今回、市の考えるところを「概論」としてまとめた。こういった考え方をもとに地域づくりの青写真をどう描くかについて、いろいろな機会にご意見を伺いながら進めていきたい。住み慣れた地域で暮らし続けるためにどうしていくのかということが基本となっている。周辺集落を切り捨てるといった考えではなく、それぞれが個性を持って魅力的に引き続き住み続けるためにどうしていくかということであるが、人口減少もあるのである程度の集約ということもあるかと思う。反対に、もっと力を入れるポイントというものも炙り出せるのではないかと思っている。まだ概論なので具体的な話はないが、ご意見をいただきたいと思う。

委員⑤：小さな拠点については分かる気がするが、それを繋ぐネットワークとは何か。例えば八幡地域は既に形成されているのではないかと思うが、どこがどう変わるのかが分からない。

事務局：ネットワークを何かと捉えるところであるが、地域づくり団体など人のネットワークも1つ、道路網もネットワークの1つ、公共交通もネットワークであるかと思う。

会長：今、八幡地域協議会でやっていることはこの考え方に基づいている気がする。全体ではなく各地域で活性化させ、それをネットワークで繋いでできていると思う。

委員⑬：小学校区を見直すという説明があったばかりで、市は何がやりたいのか分からなくなる。

委員⑤：八幡地域は大きいので5つに分散するといってもよく分からない。八幡市街地しか医療機関はない。

事務局：エリア設定はぼんやりとしたイメージで書いている。この丸の中に必要な機能が絶対にないといけないというものでもない。

- 委員⑬：自分の通う学校が統合により壊される時に、学校とは関係のない有志が集まり木造校舎の木片を表札にして各戸に配ったということがあった。その人たちにとっては、そのエリアが地域であり、心の拠り所がエリアにあるということだと思うが、そういったものを拠点づくりの中にどう盛り込んでいくかである。それが無いと、ただ便利になっていくだけのことかと思う。
- 委員⑦：資料の明宝地域の小さな拠点の中に有穂が入っている。買い物はともかく、やっぱり有穂は明宝地域に含んで良いと思う。
- 委員⑥：小那比も資料では同じく美並地域に入っている。
- 事務局：これはあくまでもイメージ案であり、決まったものではない。
- 委員⑦：地域の住民としては、この案で良いと思う。
- 委員⑥：よく検討してほしい。
- 会長：今後、この会としてはどういうふうに進めたら良いのか。
- 事務局：まずはひな形となる案を作りたいと考えている。会長をはじめ、ご意見を伺いながら進めたいと思う。また、市の第2次総合計画が平成28年から平成37年の期間で立てられており、その後期計画が平成33年から始まることとなるので、こういった考え方からできた地域づくりの青写真なども計画の肉付けに使っていきたいと思っている。今年度中に作るというのではなく、長い時間を掛けて進めていききたいので、その都度情報を共有していききたいと思う。
- 会長：具体的に目に見えるものとして、現在、公共施設の見直しを行っているが、こういった考えから施設が整理されるなどの影響を与えるのか。
- 事務局：そこまでの影響はないつもりでいる。学校を含め公共施設の見直しはそれぞれのセクションで検討しているので、現実的なものとして進められている。小さな拠点とはそれらを含めた大きな考え方ということで、ビジョンづくりをしたいと思う。
- 会長：公共施設については別の検討委員会で検討しているが、それぞれがリンクしないといけないと思う。こちらとあちらのイメージがバラバラではいけない。委員のみなさんも、もう一度熟読していただいて、今後の議論としていただきたいと思う。

4. その他

1) 旧越前屋の改修について

- 事務局：9月議会で予算が付いて、旧越前屋の改修が始まることとなった。平成27年に市が購入し活用方法を検討してきたが、目的として、旧越前屋は八幡市街地にある文化財なので、お客さんに伝統的な町家がどんなものかを見てもらえる施設にしたいということが1つ。また、いろいろと活用してもらい、地域の賑わい拠点にしたいこと、入り口側には郡上の特色のある物産の販売や、新しく起業を目指す方のチャレンジショップとする等への展開も考えている。奥にある土蔵については、アトリエなど展示や工房など多目的に利用しながら、市街地の活性化につなげていきたい。工事は今年の11月に着工し、来年7月のお

どり発祥祭前にオープンさせたいと考えている。

5. オブザーバー講評

オブザーバー①：2名の議員については所用により欠席させていただいた。9月議会は平成29年度決算審査を行った。観光立市郡上を旗印に未来への投資として、歴史資料館、産業プラザ、美並まん真ん中広場の芝生化など大型プロジェクトを実施している。将来の財政的にどうかということが1つの論点となっている。昨年度、文教民生常任委員会において意見交換会を行う中で、美並地域の若いお母さん方から、吉田小学校と三城小学校を1つに統合してほしいとの意見があった。びっくりした意見であったが、大勢の子どもの中で揉まれて成長することは幸せなことだと考えているということである。学校体制については、大人の考えではなく、やはり子どもの幸せを原点として考えていかなければいけないと思う。市の考え方として、仮に2校が統合した際に、1学年が2クラスになればメリットがあるが、1クラスのままだでは意味も薄いということが基本的な考え方だと思う。また、今年も「議員と語ろう会」を市内7会場で行うが、八幡地域については相生公民館において「防災について」をテーマにして行う。

オブザーバー②：「議員と語ろう会」について、八幡地域でも会場は相生の1箇所である。明宝も和良も美並も旧町村が各1箇所という考え方である。小さな拠点というものも含めて考えると、旧町村で人口の多いところ、少ないところでも同じという考え方である。それがどうかということも考えないといけないかも知れない。人口減少の中でいろいろな取り組みがされているが、地域協議会も含めてみんなで取り組んでいかなければいけない時期に来ている。

オブザーバー③：「防災」については、今議会の一般質問の中で最も多かったテーマあり、全員協議会でも災害のことがテーマの1つであった。ふれあい懇談会、議員と語ろう会でも防災がテーマとされ、総括されると思う。本日も中部電力の方から話を聞いたが、自分の身は自分たちで守らなければいけないと感じた。毎年行っている防災訓練も名前だけではなく、今回の災害を踏まえ、自分たちの身に役立つような訓練を行い、実際の災害時に生かしていくべきだと感じた。地域協議会でも話題にいただき、今年だけが特別だと思わないよう、今後自分の身が守れるようやっていただきたいと思います。

6. 閉会あいさつ

副会長

(閉会 21:32)